

知っておきたい MRI画像診断のコツ

企画・編集 後閑武彦 昭和大学医学部 放射線医学講座

MRIの進歩・普及は目覚ましく、その臨床的重要性はますます高くなってきている。適切な検査・診断を行うためにはMRIの技術・安全性・画像診断についてきちんと学んでおかなければならない。しかし、その技術は複雑であるし、画像診断に関しても学ぶべきことが多く、一朝一夕に習得できるものではない。MRIを習得するための入門書のようなものがあればと考えるが、気軽に手に取れるものは意外と少ないように思われる。そこで今回は、MRIの基本事項を一冊でわかりやすくまとめ、多くの方が日常臨床で活用できるような内容の特集を企画した。

本特集ではまず、総論としてMRI検査を施行するにあたり知っておかなければならない1)MRI装置の基本事項、2)撮像シーケンス、3)アーチファクト、4)造影MRI、5)MRIのリスクマネジメント、について解説している。これらの事項はMRIを安全・適切に行うだけでなく、出来上がった画像の理解・読影にも必要である。各論では、日常診療でMRIが行われる機会が多い16の領域について解説している。ここでは各領域のなかで特に知っておいてほしい基本的事項の解説を中心にしているが、ある程度MRIの経験がある方にも、知識の整理として役立つような中級レベルの内容も含んでいる。

執筆に当たっては原則として、1)日常臨床に必要な基本的知識の解説、2)図や表の多用、3)各論ではMRIが診断に有用と思われる疾患の解説をお願いした。また、従来は本文中のまとめあるいは結語として述べられるものをチェックポイントとして各項の1頁目に記した。これにより本文中にどのような重要事項が解説されているかがわかり、その全体像もつかむ事ができると思われる。

執筆はそれぞれの領域でご活躍の先生にお願いし、わかりやすくまとめたいただいた。この場を借りて深謝したい。本特集が放射線科の研修医をはじめ、各科の臨床医の日常臨床に生かしていただけたらと願う。